

学校での勉強は社会で役に立つのか(2)

－教科の学習も社会に出てすべて役に立つ－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

先週は、「新聞週間」でした。新聞を十分に読んでいただけたでしょうか。日本の新聞は、日本が世界に誇る一つの大切な文化であると思います。日本ではほとんどの地域で、新聞は雨の日も、風の日も、雪の日も、台風の日ですら毎日家庭にまで届けられます。また、日本は、世界の国々から比べると十分ではないかもしれませんが、言論の自由も保障されています。その中で、記者の皆さんは、反骨精神つまり批判的精神を駆使して、世界や日本、地域など世の中の問題点を徹底的に暴(あば)くという社会的使命を果たされています。日本の新聞には、諸外国の新聞にも負けない素晴らしい記事がたくさんあります。

世の中はこれからどうなるか、地域はどうなるか、自分の将来はどうなるか等を考える上で新聞はとても大事ですので、ぜひ読んでいただければと思います。先週で「新聞週間」は終わりましたが、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんは、子供たちの前で1日1時間以上は新聞をなめるように読み、その姿をお子さんに見せていただきたいと思います。そして、小学生は1日20分、中学生は1日40分、高校生は1日1時間以上新聞を読んで、自分の将来のこと、地域のこと、日本のこと、世界のことを考えることをお勧めしたいと思います。このようにして、批判的な精神、つまり、ものごとを自分の頭で批判的に考えることのできる能力を養っていくことは、生きていく上でとても大事な勉強であると思います。

(2)先週のこの番組では、学校での勉強や生活は社会に出てから本当に役に立つのかという視点でお話をさせていただきました。私は、学校での勉強や生活は社会に出てからとても役に立つと強く思います。例えば、遅刻をすると、学校で先生が授業で教えて下さることは聞くことができません。学校の勉強は成り立たないとも言えますので、始業時刻までに登校するのは能力であると思います。これは社会に出ても同じくらい大事で、社会生活を営む上でも、仕事をする上でも、遅刻をしないで約束の場所に到着することは大事な能力であると思います。

また、そうじ、特にトイレそうじをすることは、社会生活や家庭生活をする上でとても大事な能力です。「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「躰」を各々の語句のローマ字の頭文字をとって「5S」といいます。この「5S」はとても大事です。このような内容のお話をさせていただきました。

2. 学校での勉強は社会で役に立つのかー教科の学習も社会に出てすべて役に立つー

(1)今日は、学校の勉強は社会に出たとき、あるいは仕事に就いたときに役に立つのかということについてお話させていただきます。

役に立ちます。よく考えていただければわかると思いますが、文字が読める、その文字を使って書いたものが理解できるということは、とても大事なことです。文字が読めず書いてあることが理解できなければ、バスに乗ることもできないし、目的地に行き着くこともできません。時刻表さえ読むことができないからです。

(2)また、自分で文字が書けることも大事です。文字を使って、自分の伝えたいことを相手に伝えることができるのも大事です。これも、社会生活を営み、仕事をする上で欠くことができません。不可欠です。

(3)文字が読めて、それが理解できる。文字が書けて、それを使って自分の伝えたいことを相手に伝えることができる。これらは、とても大事です。

(4)さらに、相手の言っていること・話していることが正確に聞き取れる、これも大切な能力です。聞き取った上で、相手の話していることが理解できる、これは相当な学力がないとできません。これも、社会生活・仕事をする上ではとても大事です。お客様がお話をしていることが聞き取れないと大変です。また、それが理解できないと、よいサービスができず、仕事にもなりません。ビジネスをする上で仕事相手の言っていることが理解できなければ、仕事になりません。ですから、相手の話を聞き取り、理解するのは大事なことです。

(5)そして、自分の伝えたいことを言葉(言語)を使って話すこと、音声で伝えることも大事です。これも、社会生活・仕事の上で欠くことができません。背景となる知識が相当ないと、自分の伝えたいことを相手がわかるように伝えることができず、理解してもらうこともできません。

(6)それから、計算ができることも大事です。買い物に行っていくつかの品物を買ひ、どのくらいになるかを考えて紙幣を出しお釣りをもらう。これがパッとできなければ、よい買い物はできません。お店の人も、少しの買い物はレジを使わずに暗算で代金が出せなければ大変です。簡単な計算は、暗算でできることも大事な能力です。更に言えば、物を作る製造業の方は、相当難しい計算ができなければ、また、手順を考えてものごとをすすめる能力、つまり論理的なものごとを考える能力がなければ、仕事になりません。ですから、学校の勉強は、社会生活や仕事をする上で役に立ちます。

(7)これからの世の中はグローバル化といいますか、外国の方がたくさん日本に入ってきますし、外国との取引も盛んになりますので、英語の力がないとなかなか仕事になりません。また、生活もしにくいです。皆さんも外国に行くと実感すると思いますが、英語が話せないと大変困ることが多いと思われます。また、英語に限らず、中国に行ったら中国語、韓国に行ったらハングル語、

ラテンアメリカに行ったらスペイン語やポルトガル語というように、その国に行ったらその国の言葉を、その地域に行ったらその地域の言語を学び、理解し、身に付けることが必要です。つまり、言葉を学ぶことはとても大切です。

(8)そのためにも、まずは世界の共通語である英語を小学校の高学年から中学校、高等学校にかけてしっかり身に付けることが求められます。少しずつでよいですから、学校時代に英語の文法を正確に身に付けることはとても大切です。

もちろん、コンピュータも大事です。コンピュータが上手く使いこなせないと、相手の言っていることも理解できませんし、自分の考えも伝えられません。

(9)繰り返しになりますが、このように学校の勉強はすべて、社会に出てから役に立ちます。体育も、美術も、音楽も、技術家庭もとても役に立ちます。歴史、地理、公民、数学、英語、理科、社会、国語など学校で学ぶ教科は全部役に立ちます。

3. おわりに

ですから、小学校、中学校、高等学校、大学、短期大学、専修学校、専門学校などで学んでいる方は、そこで学んでいることで役に立たないものは一つもないと自覚して、しっかり勉強に励んで下さい。今学んでいることは何の役にも立たない・無意味であると思ってしまうと、やる気も全く生まれませんので、このことはしっかりと自覚して下さい。

お子さんをお持ちのお父さんやお母さんは、自分のお子さんにこのことをぜひ自覚させて下さい。おじいさんやおばあさんも、お孫さんが自覚できるよう御努力いただければありがたいと思います。

— 2008 年 11 月 6 日加筆 —